

文部科学大臣への手紙

文部科学大臣 平野博文 殿

拝啓、突然のお手紙で失礼します。

今年の8月22日水曜日に、香川県高松市で「いじめゼロ子どもサミット2012」を開催しました。今回のサミットでは、私たち38名の実行委員を含めた県内の小・中学校の代表約250人と保護者や先生方など合わせて約700人が集まり、いじめについて話し合いました。

このサミットは3年前に1回目が開かれ、今回が2回目の開催です。この間の2年間は、今年のサミットをより私たちに身近な良いものにしようと実行委員会で案を練り準備をしてきました。イメージキャラクターのテーマソングや缶バッジを作って各学校に配布したり、県内の児童会長・生徒会長にいじめゼロ月間の取り組みを提案する手紙を書いたりしてきました。

今回のサミットでは、うどん県副知事の要潤さんや3年前の実行委員の高校生の先輩からメッセージをもらったり、参加者全員で「交流ゲーム」をしたり、「子ども会議」では、香川のいじめをなくすためにできることについて意見を言い合ったりと、私たちのアイデアをそのまま形にすることができました。「こども記者会見」では、あわせて11社のテレビ局や新聞社が協力してくださり、私たちの考えを地域に直接伝えてくれました。先生や友だちもニュースを見て、いじめを減らす取組に関心をもってくれました。

私たちは、このサミットを通して、他校の人たちと意見を出し合い討論することの楽しさと、一つの事に対していろいろな視点から解決策を考えてみることに、なかまの大切さを学びました。そして、いじめはいけない、絶対止めなければならないという思いが一層強まりました。

私たちは、こうした取り組みを全国に広げたい、私たち小・中学生の思いを全国の方に知ってもらえるような場がほしいと思い手紙を書かせていただきました。全国版いじめゼロ子どもサミットを行う、その中で例えばいじめゼロに繋がる心が温かくなるようなCMやドラマを作って全国に放映するなどのアイデアを実現させることは可能でしょうか。

香川県のいじめの認知件数は年々減少してきています。それは、私たちが活動してきたからかもしれないととてもうれしく思い、少し安心していました。そのような中、大津市でのいじめ自殺の事件が起きました。私たちは、日本国内での同世代の自殺などを繰り返してはいけないと強く思いました。まずは同じクラスや部活動の友だちの様子に注意し、次に学年、学校、市、県、国と、すべての人たちが協力していじめをなくす取り組みを広げていくことが必要だと思います。東日本大震災で、あれほどの団結の力を見せることができた国です。いじめに対しても国が一つにまとまって何かできるのではないのでしょうか。

いじめは、いけないと思っているだけでは解決しません。だれかのせいにしたり批判ばかりするのではなく、夢をもって自分が具体的に行動することが大切だと思います。また、一人で立ち向かうのではなく、みんなの願いの『わ』を広げていくことから始めていかなければなりません。前回に引き続き、今回、香川県内には大きな『わ』がまた一つ広がりました。だから、この『わ』をもっと広げ、いじめに悩んでいる小・中学生にもこの思いを伝えたいと思い、今回お手紙を書く決心をしました。全国の全ての小・中学生が、いじめの問題から解放され、笑顔で楽しい学校生活を送れることを強く望み、人々の『わ』が希望の『わ』となって大きく広がっていくことを願っています。

敬具

「いじめゼロ子どもサミット2012」実行委員代表